

## 今日のキーワード 「街角景気」、先行き判断は低下（日本）

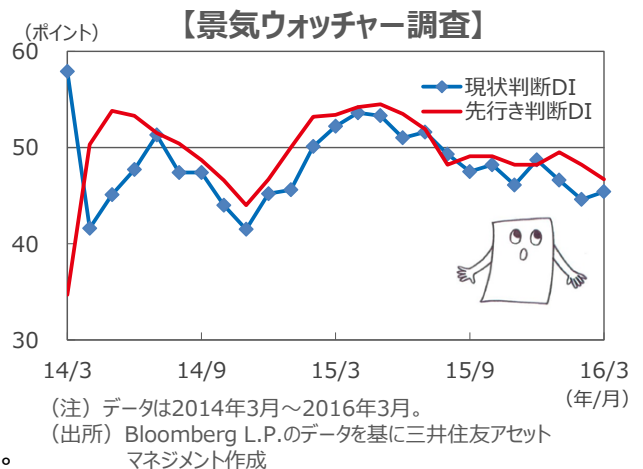
「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3か月前と比べたその時点の景気と、2～3か月先の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

### ポイント1 現状判断DIは3か月ぶりに上昇 8か月連続で50を下回る

- 2016年3月の「景気ウォッチャー調査」（調査期間3月25日～31日）は、「現状判断DI」が前月から0.8ポイント上昇の45.4ポイントとやや持ち直したものの、8か月連続で50を割り込みました。雇用関連DIは低下となりましたが、家計動向、企業動向関連が3か月ぶりに上昇しました。
- 街角の声には、「客先の設備投資が増えてきている（東海の輸送用機械器具製造業）」と前向きな声があるほか、「大企業と中小企業との間で、派遣料の格差が生じている（近畿の人材派遣会社）」などの声も聞かれました。

### ポイント2 先行き判断はさらに低下 家計、企業動向関連が低下

- 2～3か月先の見通しを示す「先行き判断DI」は、前月から1.5ポイント低下の46.7ポイントでした。横這いを示す50を8か月連続で下回りました。
- 街角の声には、「客との会話の中で、どうしても先行きの不安だとか今使えるお金がないという話が次々に出てくる（北関東の衣料品専門店）」、「国内は好調ながら不透明感が増している。海外は原油価格下落による市況低迷もあって、市場縮小傾向にある（四国の一般機械器具製造業）」といった声がありました。



### 今後の展開 DIの改善には金融市場の安定化が求められる

#### ■ 株安と円高の影響が出る

今回の調査でも、引き続き、年初からの金融市場の急変による株安と円高が企業や家計の行動を慎重にさせている側面がうかがわれました。マイナス金利については、住宅販売会社からポジティブな声が聞かれます。一方で、マイナス金利政策による

心理的な影響は少なくないとして、現在の金融政策を不安視する声も聞かれました。マイナス金利政策の効果を確認するにはまだ、時間がかかりそうです。まずは、金融市場が安定化することが求められます。政府・日銀の今後の対策が期待されます。

ここもチェック! 2016年 4月 8日 東北が引き下げ「さくらレポート」(日本)  
2016年 4月 1日 日銀短観と市場動向 大企業の景況感悪化、政策前倒しの可能性も

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。